

にかほ市学校環境適正化 アンケート調査結果

にかほ市学校環境適正化検討委員会
にかほ市教育委員会

学校環境適正化に関するアンケート調査

(1) 調査概要

小中学校の適正規模・適正配置を検討するにあたっては、近年の少子化に伴う児童生徒数や学級数の減少の実数を把握するとともに、今後も減少が見込まれることを現実的な問題と認識したうえで、将来にわたった展望が必要になります。

本年度から学校環境適正化を検討するにあたり、保護者、教員、児童・生徒、自治会等の意向を把握することを目的としてアンケート調査を実施しました。

(2) 実施期間

令和4年9月1日（木）～9月16日（金）

(3) 調査対象

未就学児保護者	・・・	保育園、子ども園等を通じて配布
児童・生徒保護者	・・・	学校に配布を依頼
児童・生徒	・・・	学校に配布を依頼（小5・6年、中1・2年）
小中学校教員	・・・	学校に配布を依頼
各自治会	・・・	広報配布時に同時配布

(4) アンケート対象及び児童・生徒数

	保護者 自治会長			児童生徒			教員		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
未就学児	596	463	77.7	—	—	—	—	—	—
小学校	927	769	83.0	342	311	90.9	74	68	91.9
中学校	495	379	76.6	309	273	88.3	61	52	85.2
各自治会	103	89	86.4	—	—	—	—	—	—
計	2,121	1,700	80.2	651	584	89.7	135	120	88.9

総配布数 2,907 回収数 2,404 回収率 82.7%

学校環境適正化についてのアンケート調査（保護者、教員、自治会用）

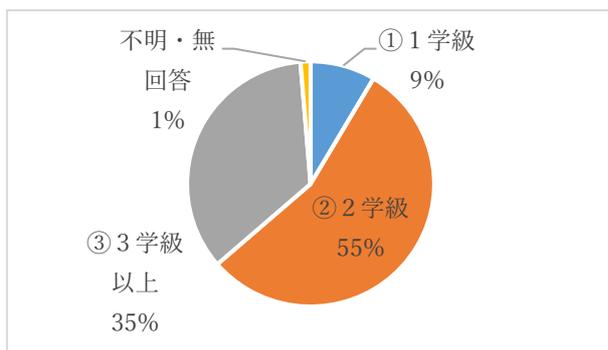
回答者の年代

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
計	1	110	689	778	127	67	35

問1 国においては、小学校の1つの学年は1学年あたり2～3学級（1学級あたりの人数は35人程度）を標準としていますが、何学級が望ましいと考えますか。

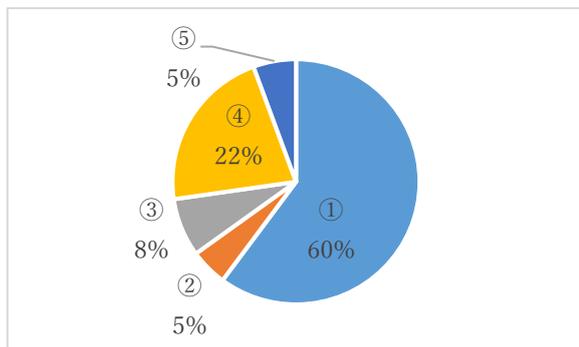
（あてはまるもの1つに○）

① 1学級（155） ② 2学級（1,003） ③ 3学級以上（638） 不明・無回答（24）



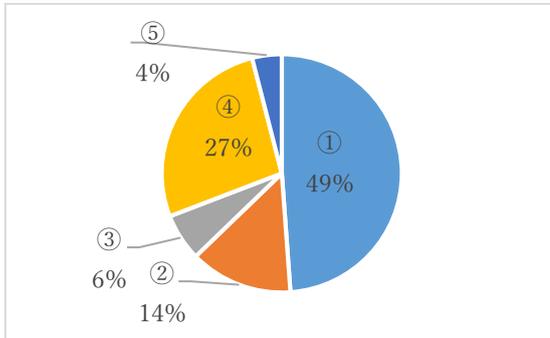
問1-1 問1で、1学年当たり「1学級」と答えられた方は、そう考える理由をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

- ①先生の目が届きやすく、きめ細やかな指導を受けることができる (86)
- ②学校行事で一人ひとりが自主的に活躍できる場がある (7)
- ③異学年と接する機会や交流があり、学年を超えた友だちがしやすい (11)
- ④同じ児童と長い間同じクラスで過ごすことができ、親密になることができる (31)
- ⑤その他（・地域的に1学級の人数しかいない・2クラスにする人数がない・勉強など1学級の方が子ども同士で教えあうことができていると思う） (8)



問1-2 問1で、1学年当たり「2学級」又は「3学級以上」と答えられた方は、そう考える理由をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

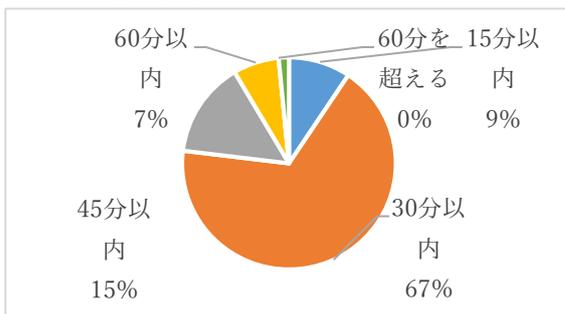
- ①クラス替えがあり、たくさんの友だちができるなど環境の変化を経験できる (785)
- ②子ども同士が刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える (223)
- ③協調性を養う機会に恵まれる (103)
- ④たくさんの先生や友達から、多様な考えに触れることができる (432)
- ⑤その他（・1クラスだと問題が生じたときに逃げ場がなくなる。同じクラスはつらい。先生たちが勉強を教えやすいのではと思う） (64)



問2 国においては、小学校までの通学時間（距離）の目安をおおむね1時間（4キロメートル）以内としています。どの程度の時間までが通学可能な範囲だと考えますか。（ ）内に記入してください。

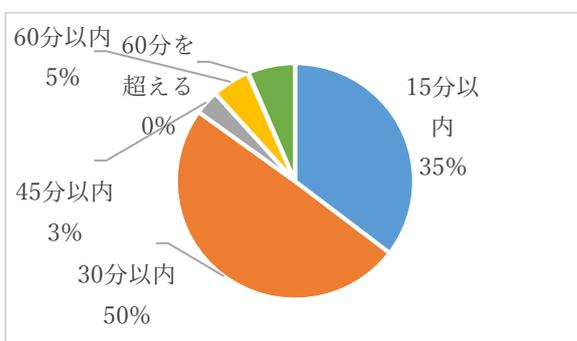
①徒歩の場合

- 15分以内 (151) 30分以内 (1,088) 45分以内 (235) 60分以内 (112) 60分を超える (0)
不明・無回答 (25)



②スクールバスの場合

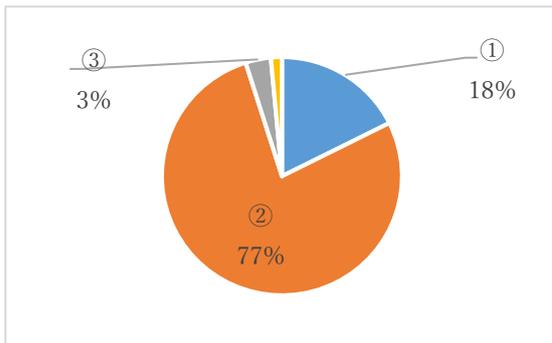
- 15分以内 (570) 30分以内 (799) 45分以内 (54) 60分以内 (83) 60分を超える (2)
不明・無回答 (103)



問3 国においては、中学校の1つの学年は1学年あたり4～6学級（1学級あたり
の人数は40人程度）を標準としていますが、何学級が望ましいと考えますか。

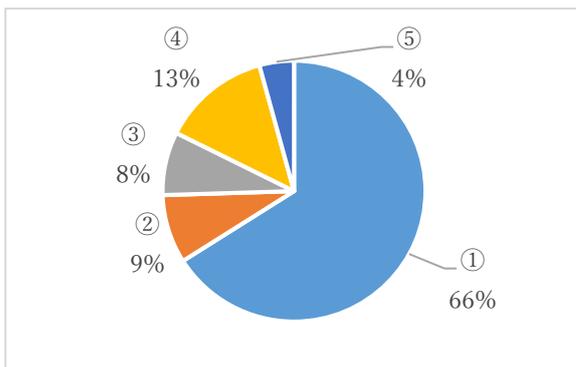
（あてはまるもの1つに○）

- ① 1～2学級 (321) ② 3～5学級 (1,410) ③ 6学級以上 (62) 不明・無回答 27



問3-1 問3で、1学年あたり「1～2学級」と答えられた方は、そう考える理由を
お答えください。（あてはまるもの1つに○）

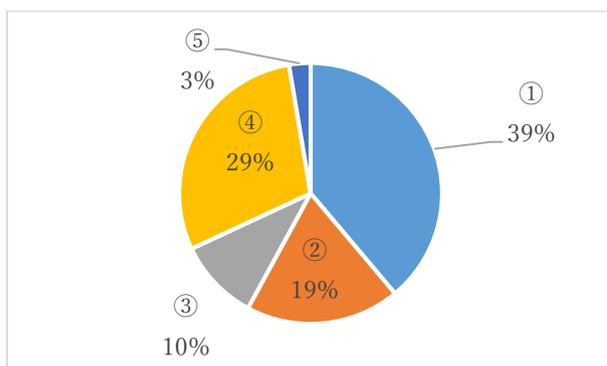
- ① 先生が目が届きやすく、きめ細やかな指導を受けることができる (202)
 ② 学校行事で一人ひとりが自主的に活躍できる場がある (26)
 ③ 異学年と接する機会や交流があり、学年を超えた友だちができやすい (24)
 ④ 同じ児童と同じクラスで過ごすことができ、親密になることができる (41)
 ⑤ その他（・人数が少なく2学級で十分なため・自分のときも、ずっと2学級だった） (13)



問3-2 問3で、1学年あたり「3～5学級」又は「6学級以上」と答えられた方は、
そう考える理由をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

- ① クラス替えがあり、たくさんの友だちができるなど環境の変化を経験できる (561)
 ② 子ども同士が刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える (274)
 ③ 協調性を養う機会に恵まれる (146)
 ④ たくさんの先生や友達から、多様な考えに触れることができる (423)
 ⑤ その他（・クラスの人数が少ないほうが先生が目が届くと思うから・目が行き届く人数であってほしい・先生が目が届きやすく、きめ細やかな指導を受けることができる）

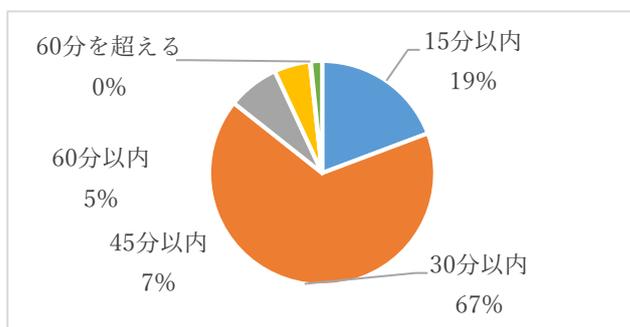
(38)



問4 国においては、中学校までの通学時間（距離）の目安をおおむね1時間（6キロメートル）以内としています。どの程度の時間までが通学可能な範囲だと考えますか。（ ）内に記入してください。

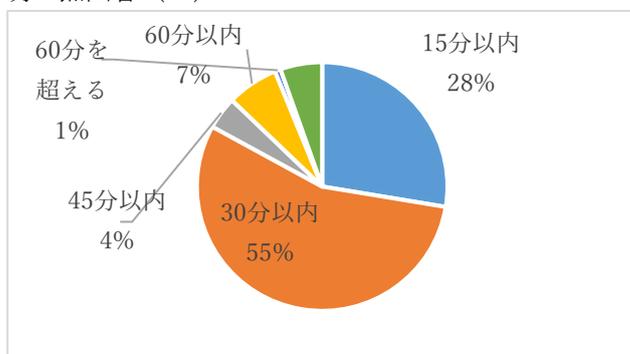
①自転車の場合

15分以内 (310) 30分以内 (1,071) 45分以内 (119) 60分以内 (83) 60分を超える (2)
不明・無回答 (26)



②バスの場合

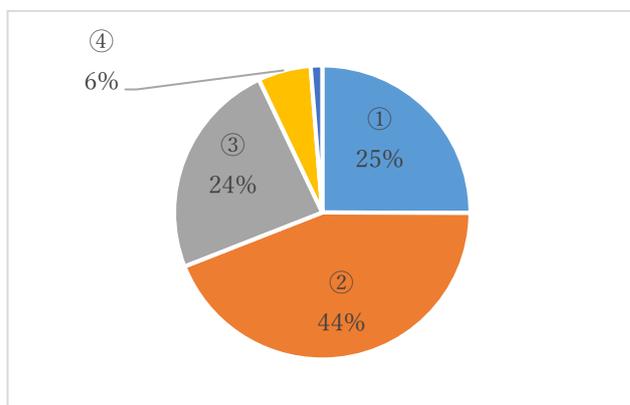
15分以内 (445) 30分以内 (892) 45分以内 (68) 60分以内 (107) 60分を超える (12)
不明・無回答 (87)



問5 学校区の範囲を設定するにあたって、以下のことについてどのように考えますか（それぞれあてはまるもの1つに○）

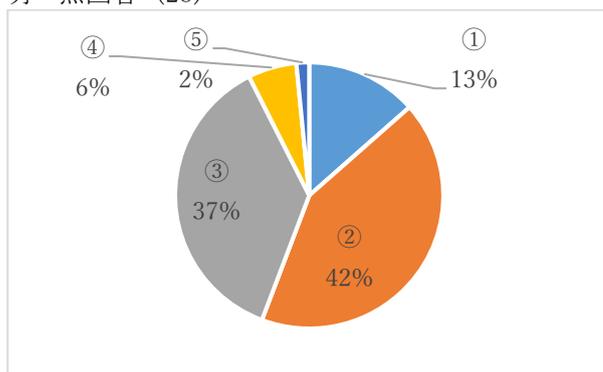
問5-1 近隣の友人（同じ自治会など）と同じ学校（同じ学校区）に通うこと

①重要 (456) ②やや重要 (800) ③あまり重要でない (436) ④重要でない (105)
不明・無回答 (23)



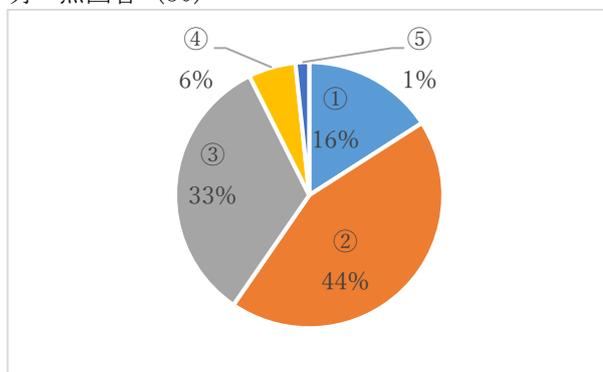
問5-2 学校区と旧町の範囲が一致するよう考えること

①重要(245) ②やや重要(770) ③あまり重要でない(671) ④重要でない(107)
不明・無回答(28)



問5-3 児童生徒が学校生活を送る上で、望ましい学級数やクラス人数(12学級以上18学級以下、1学級35~40人規模)となるよう考えること

①重要(289) ②やや重要(795) ③あまり重要でない(602) ④重要でない(104)
不明・無回答(30)



問5-4 上記以外で設定する際に重要と思うことがあったら記入してください

◎学級の人数、児童生徒数、クラスのあり方に関すること

- ・先生の目が届きやすい人数であることが大事だと思います。
- ・1学級の人数は20人くらいにして、クラス替えができるようにした方がよい。
- ・クラス人数は1学級30人程度が望ましい。
- ・1学級の人数をもっと少なくしてもよい。
- ・学習に対して指導を受けやすい人数が望ましい。
- ・部活動が単一校でできるような人数。
- ・学校区の範囲を広げると、生まれ育った地域の伝統芸能や行事などに対する関心が希薄になる恐れがあり、郷土に愛着を持たない子どもの増加により、更に人口減に拍車がかかることが懸念される。
- ・子どもたちの将来を考えると、環境の変化への対応力を養うことが大切だと思います。
- ・1学級20人程度が望ましい。
- ・人数がある程度いて、諸活動が十分に行えることが重要。
- ・望ましい学級数とクラス人数については、分けて考えることが重要だと思います。

◎先生の人数、配置等に関すること

- ・クラスの数や学区よりも、配置される先生の人数が大事かと思う。(担任や副担任、サポートなど)
- ・先生が生徒を細やかにみることができるよう、クラスに対して先生の数を増やすなど

- 柔軟にしてほしい。
- ・担任を複数化。

◎通学や登下校の安全に関すること

- ・通学手段の確保。
- ・通学にあまり時間をかけないように考えるのが重要。
- ・安全な通学手段。
- ・遠くても、学校指定されたら親は送迎します。
- ・小学校の学区はスクールバスを使わないこと。
- ・スクールバスで通うしかない距離・状況（山間部住みでクマ出没等の危険がある）の子が長時間車に乗っていただけない状況にならないように配慮すること。

◎学校の場所等に関すること

- ・通学について困難が生じず、公平性が保てること。
- ・通いやすいところ。

◎学区の考え方に関すること

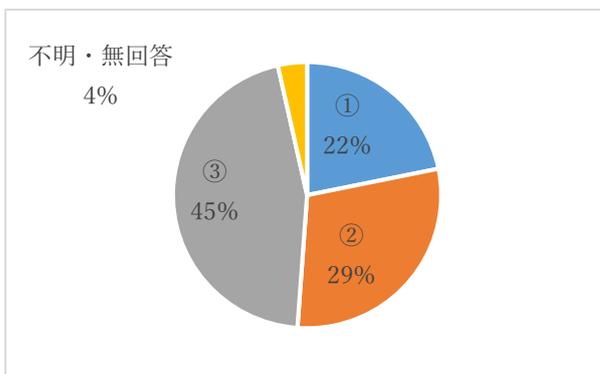
- ・小学校区は旧町の範囲と一致するようにし、保育園の友達と新しい友達の数が同じになるようにし、新しい環境負荷が小さくなるようにしたい。中学以降はある程度理解する年齢になると思うので、高校のように旧町の範囲はそこまで重要とは考えない。
- ・地域で行くべき学校が決まっている状況は不必要。学校の特色などの個性を伸ばし選択できるようにする。
- ・児童が自由に選択できるようにしてほしい。（やりたい部活があるとか、ここでまなびたいとか）
- ・本人が行きたい所があるのであれば、選択できるとよい。
- ・特色ある魅力ある学校であれば、通える範囲で通わせてあげたい。スクールバスの導入でも可。
- ・旧町の学区は安心感がありますが、保育園に入園させるときのように学区の選択は自由でもよいと思う。
- ・距離だけでなく入りたい小学校、中学校に入れるようになると嬉しい。
- ・スポ少などは、旧町を超えて一緒に行っていることが多くなってきているので、旧町よりは学校からの距離で考えてはどうかと思う。

◎その他

- ・子どもが安心で、安全な場で勉学など学べる環境が重要だと思う。
- ・自宅周辺など普段の生活圏に学校があり、緊急時に保護者の対応がしやすいこと。
- ・いろいろなやり方が選べて、尊重されたいです。
- ・いじめや孤立が増える中、今の子供たちの環境を変えることを反対したい。

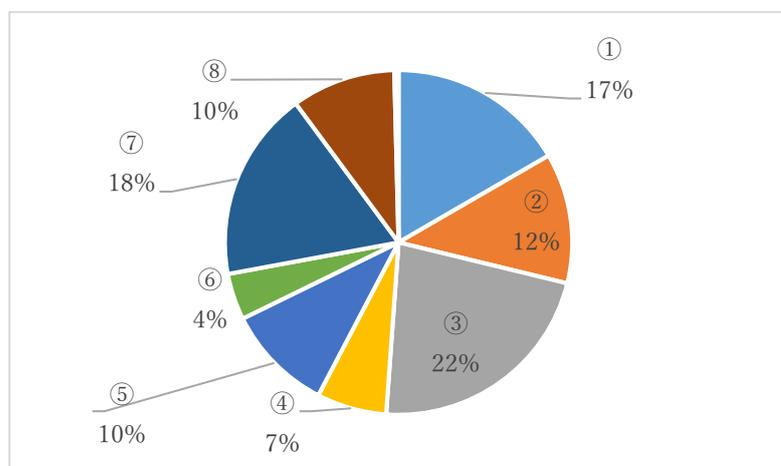
問6 児童生徒の通学について最も重要と考えるものを選んでください

①通学時間（397） ②通学距離（534） ③通学手段の確保（825） 不明・無回答（64）



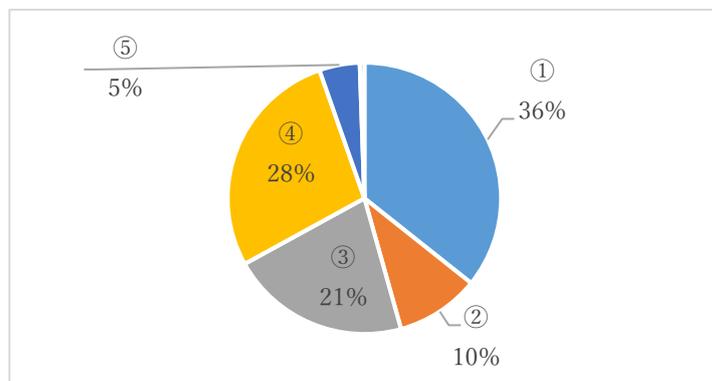
問7 学校環境適正化（適正規模・適正配置）を考える上で、どのような教育環境を求めますか。（あてはまるもの3つ以内に○）

- ①子ども同士が刺激しあい、学力、体力を高めあうことができる (846)
- ②集団の中でいろいろな役割分担を経験できる (623)
- ③子どもたちが社会性や協調性を身に付ける機会がある (1, 138)
- ④部活動が充実している（種類、人数など） (332)
- ⑤多様な学習形態の授業指導を受けることができる (513)
- ⑥学校行事で一人ひとりが自主的に活躍できる場がある (222)
- ⑦一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな指導を受けることができる (910)
- ⑧子ども同士で活発なコミュニケーションができる (494)
- ⑨その他（・小学校ではスクールバスを使わないこと・子どもたちが安全に通学、勉強できる環境・先生の負担軽減・人数規模だけで考えないで） (20)



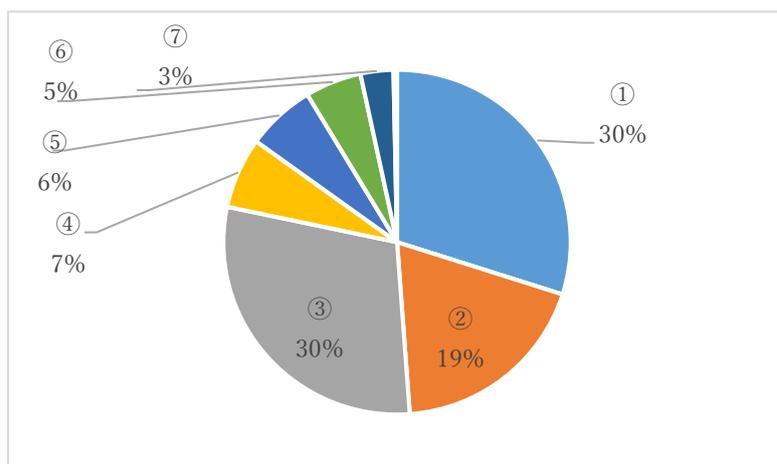
問8 児童生徒数が少ない小規模校対策として、どのような方法が考えられますか。（あてはまるもの2つ以内に○）

- ①通学区域（学校区）の変更や柔軟な運用を検討する (1, 000)
- ②学区外からの通学者を増やす方策を検討する (278)
- ③小規模校間での学校の統廃合を検討する (596)
- ④小中一貫校の新設等、新しい学校形態を検討する (775)
- ⑤複式学級（2つ以上の学年をまとめて1学級にする）になっても存続させる (134)
- ⑥その他（・複式とならないよう講師等の配置・ネット環境、リモートの活用・他校と積極的に交流を持ち視野を広げる・小規模のまま継続していけたらと思います・小規模校にしかできない魅力開発） (15)



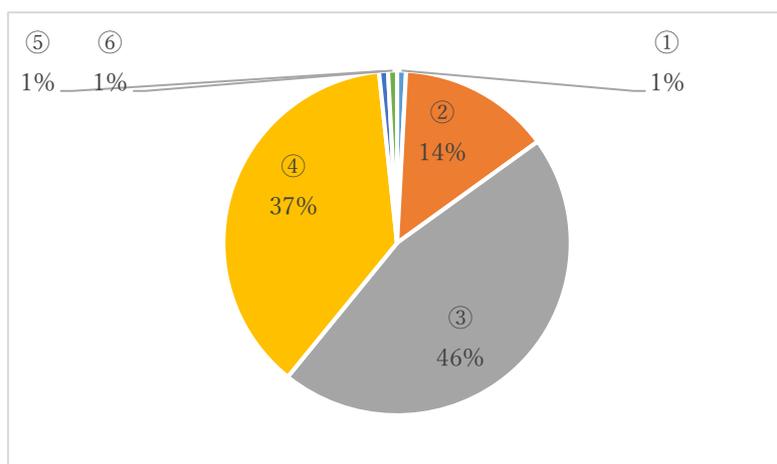
**問9 今後、小学校の統合や中学校の統合を検討するとした場合、特に配慮が必要だと
思われることは何ですか。 (あてはまるもの3つ以内に○)**

- ①児童生徒が快適に学習できる環境整備 (1,367)
- ②統合した学校の設置場所 (865)
- ③安全な通学手段(スクールバスの導入) (1,347)
- ④部活動の充実 (304)
- ⑤地域とのつながり (293)
- ⑥地域の過疎化対策 (240)
- ⑦学校の跡地利用 (140)
- ⑧その他(学校から離れた場所から通学する場合、緊急時の帰宅などが難しくなるのでは・小規模校から通うことになる児童生徒の心のケア・環境変化による子どもの精神面への配慮・いじめ対策・不登校のサポート・小学校はこれ以上統廃合しないこと (18)



**問(教員のみ) 国においては、小学校については2025年から「1学級35人を標準とする」としていますが、どの程度のクラス人数が適当だと考えますか。
(あてはまるもの1つに○)**

- ①15人以下 (1)
- ②16~20人 (17)
- ③21~25人 (55)
- ④26~30人 (45)
- ⑤31~35人 (1)
- ⑥36~40人 (1)



問10 今後の、にかほ市立小中学校の在り方について自由に記入してください。

(一部抜粋)

・中学校に入学すると勉強についていけない子供が年々多くなっていると聞きますが、生徒が少なくなっているのに勉強のできない子供が多くなる原因が分かりません。指導力の低下なのか、親(家庭)の責任なのか。

・現在、そしてこれからも少子化問題は欠かすことのできない問題であるため、学校又は地域の取り組みが重要と思われる。一人ひとりの子供たちを行政も含めて見守っていききたいものです。

・子供達の可能性は未知数であり、本人の価値観も一緒ではないことから、子どもたちの個性を尊重した指導・教育が望ましいと思います。また、大人が考える教育の場は子どもが主役であり思想統制ではありません。その中で環境変化に対応でき、協調性のある人に育ててほしいと思います。

・10年、20年後の人口推計から考え、立案、実施願いたい。秋田に住んでいても世界規模の仕事ができるような教育をしてほしい。語学等の充実

・児童数の減少に対応した学校の在り方は重要ですが、にかほの学校で子どもを育てたいと思える教育環境と若者が地元に残りたいと思える施策を同時に考えるべきだと思います。

・1学級の人数(少数対応)の検討

・少子化対策の強化により、将来の望ましい学校配置をお願いしたい。

・30年後位先のかほ市の人口及び小中学生の人数を推計して学校の在り方をシュミレーションするべきと思う。予測される児童生徒数がどの程度になるのかによって最適な対策を早く決めて今から推進していくべきと思う。

・あまり長時間の通学時間が必要になることは児童にとって望ましくはない。少なれば少ないの教育指針があってよいと思われる。地域に残る子供、残れる環境を行政として作ることが必要と思われる。

・健全な児童であってほしい。いじめ問題は絶対にあってはならない。昔は先生方が強かったが、今の時代はPTAが強いを感じる。もっと上下関係を見直してもらいたいし、先生方が強いものであってもらいたい。

・地方というのは人間形成に必要な環境。可能性を広げられる教育の場を作ってほしい。

・これまでは学校の統合は地域内のことであり、住民も許容していた面もある。今後、地域間の統合となると相当の軋轢が出ると思われる。初めから安易に地域間の統合ありきではなく地域に一つの小中学校を前提に方策を検討していく姿勢が大事かと思う。

・金浦町の場合、小中一貫校でもしょうがないと思う。旧町村内に1校でやってもらいたい。小学校で全国レベルの学力なのに、中学校、高校で全国の最低レベルの学力になる原因を考えてもらいたい。

・教員不足、部活動の地域クラブ化

・文部科学省トップダウン式アンケート調査に違和感がある。統合をやむを得ないとしても、平沢、金浦、象潟三地区存続を原則とすべし。

・少子化で統合が進むのはある程度仕方のないことなのかもしれない。統合した他地域の状況、子供たちの話も聞きながら子供たちにとってより良い環境にしてほしい。

・小中連携した取り組みを基盤としてコミュニティスクールも定着し、学校と地域をつなぐ仕組み、小中児童生徒間・教職員間もよりよく進んでいるので小中一貫教育(義務教育学校)でも、この地に残したい。地域もまた、子供たちは宝と考えている。小規模校のメリット・デメリットもそれぞれだが与えられた環境に適応して生活していけるよう人間力を養うことが一番需要と考えています。

・地域から学校が無くなることによって、これまで果たしてきた地域をつなぐ機能が低下し、希薄になってしまうのではないかと心配です。

・学校事情でやりたい部活が選べないのは、可哀想だと思う場面があった。

・学校が無くなると地域コミュニティとしての機能が低下してくれるように思われる。これから

更に高齢化、少子化が進む中で、にかほ市の将来像をいろいろな立場から共有できるようになれば良いと思う。

・このまま（現状）が一番ではありますが、急激に子どもの数が減少していることから、何らかの手は打たなければならないと思います。統合も一つの手ではありますが、特に小学校は仁賀保地区以外は限界まで統合されている気もします。とは言え、小中を統合しても特に中学校の活動の幅が限られているのは難点です。

・教職員の確保（常勤の方で、短時間勤務でない。）

・学校行事を精選すべきだが、にかほ市の小中学生が交流する場をもっと増やすべきではないか。

・市町村単位で決定できるものではないかもしれないが、1学級の人数は20人程度で十分ではないかとも感じる。一人ひとりにきめ細やかな指導を実現していきたい。部活動の地域移行についても、2025年度末までと言わず早急に実施してほしい。教員が定時を過ぎても当たり前のように部活指導をしているのは疑問を感じる。休日も家庭を捨てて指導しなければならず、地域への移行を直ちに進めてほしいと感じる。

・小学校は旧町内ごとに1つずつ、中学校は1つに統合、スクールバスで登校する。部活動は地域に移行していくと考えられるので、統合して使用しなくなった校舎の体育館を活用する。

・にかほ市の場合、旧三町にはできるだけ小中が1校ずつ存在するような配慮がほしい。人数が多くなれば子どもたちが切磋琢磨できるというメリットはあるが、地域から活気が失われるということを考えると安易な統合はしない方が妥当かと考える。

・充実した教育活動を実施するためにも、ある程度のクラス数、ある程度的人数が必要であると考える。

・今後子どもの数の減少が続いていった時には、旧町の範囲に関係なく学区を編成していかなくてはならないと思います。

・児童・生徒数が減少し1学級にいる子供の数が多くないので、1人ひとりをよく見て、個に応じた学習指導等を充実させていくことが大切だと思います。また、学校内に空き教室があることも活用し、少人数に分けての学習を行うといったこともできると思います。

・少人数できめ細かな指導ができる環境が維持できるといいと思います。

・旧町地域の存続。小中1校ずつ。部活動指導者を外部から。にかほ市で合同チーム

・ある程度の学級数、児童数は必要ではありますが、人がいないから統合すればよいものでもないと思います。統合で人数が多くなると、人に隠れて自由にのびのびしてしまう子どもも多くみられ、集団で生活する基盤が十分でないのに教室に詰め込まれてしまう気がします。人が多くなるほど、家庭の教育力が問われるように思います。

・地域、保護者、市がより深く広く議論し、納得できたうえでより良い教育環境を模索出来たらいいと思う。

・コロナ禍であっても学校経営が止まることなく、子どもたちの学びの場があるようにしていただきたい。行事や地域との交流の場をなくさないような配慮など。

・国が求めるものに従っていこうとすると、仁賀保地域だけの問題ではなくなってしまうと思います。ですが、地域の一つは小中学校がほしいと思います。

・統廃合が行われた場合、地域に学校がなくなることはとても残念な事なので、校舎を生涯学習やコミュニティの場として活用できれば良いのではないかと思います。

・少子化が進む中、充実した教育環境を整えるためには、今のままでは立ちいかなくなることは目に見えています。しかし、だからといって簡単に統廃合してもいいのかという疑問も残ります。これまで閉校となった市内の学校を見ると、跡地利用はされていますが地域文化の中心がなくなり寂しくなったという感じは拭えません。将来、市に一小、一中となるのだけは避けていただきたいと思います。

・小学校は仁賀保、金浦、象潟各地区に1校ずつ。少人数できめ細やかな指導ができ、各地域に根ざした学習環境。中学校はにかほ市で一つ。1学年に複数学級あることで子ども同士が切磋琢磨しながら、たくましく成長できる環境を望みます。

・統廃合もあるが、地域との関わりは保ちたい。

・子どもの数はどんどん減っているが「地域の学校」を安易になくさず、地域と連携して残していくのが希望である。

・学校に予算をいただける行政、教育長の温かい言葉、とても働きやすい環境に感謝しています。象潟中に上郷、上浜が合併する際に、スクールバスなど交通手段を確保することが条件だったと聞いています。しかし、上郷バスが学校生活と合わず、学校の迎えが欠かせない状態です。小学校のスクールバスのように生徒が使いやすいようにできないでしょうか。

・児童生徒にとって最大の影響力のある環境は教師だと考えます。その教師が疲れ切っている現状です。何より人手が必要です。教師の数を増やしてほしいです。そういう環境整備を強く願います。

・少人数学級（20人以下）を他地域よりも早く進め、特色ある教育を行っているまちとなつてほしい。本来は15人くらいにし、多様な特性を持った子どもたちにも対応できるようにしていきたい。コロナが終息すれば、学校の枠を外して、行事や学習を合同で行うなどして、まちをあげての教育を行ってもよいと思う。中学校の部活の数や種類も1校の中ではやっていけない。にかほ市内合同でやれるといいです。

・象潟小から象潟中というエレベーター式で生徒が進学する際の気持ちの成長や意識改善、先輩後輩の上下関係などすべてにおいて希薄。本荘由利地区において学力も低く、学習しなければという意識も、子、親ともに低い。このような小中の在り方であれば、義務教育学校にし、小中一貫した指導をすべきである。これはにかほ市全域に言える話である。

・部活動で合同チームが毎年のように編成されたり、少ない人数での活動となつてしまっている。これは、生徒の成長にとってよい環境とはいえない。ある程度の規模を確保して教育に当たれるようにしてほしい。

・スポーツの楽しみ方を教えてあげたい。本当に勝ちたいというスポーツと体力づくりや生涯の趣味としてやりたいスポーツを分けて考えてほしいと思います。5年後ではなく、10年後を考えて中学校1つにする前に少しの間、仁中、象中の2校にする期間があったほうが良いと思います。

・人数が少ないからといって、すぐに統合するのはどうかと思います。

・通学時間中の子ども同士の会話、コミュニケーションも重要だと思います。小学生、中学生では子供の意識も変わるはず。自力で通える通学距離、時間ということも考えてほしい。（特に中学生）

・私の個人的な内容になるかと思いますが、出身校が小中一貫校でありました。小中一貫にはメリットが見られることが良いと思いますが、私はオススメしたくないと考えています。もし、小中一貫を検討するならば、校舎を別にするなど配慮が必要かと思われまふ。

・中学を一つに統合

・小規模となつても現在の学校を希望します。先生が目が行き届く環境、同じ友人と長く親密になれる環境がほしいです。父はにかほ市出身、母は県内出身者で、母は小規模校に通っていました。大人数でなくとも切磋琢磨しあい協調性を養う機会がありました。地域とのつながりも深く今も学校生活を通じて知り合った人との交流が残っています。金浦地区に住んでいますが、見ず知らずの人にも挨拶してくれる子どもたちに驚いています。この環境を残してほしいと願っています。金浦小、金浦中に隣接しているので、一貫校等検討していただきたいです。

・金浦にいながら、仁賀保中に進学するなど選択があつてもいいのかなど。小から中に進学したときに一気に学力や部活に差が開いた自覚があるため。

・自宅から近い方が安心して通わせることができると思います。できれば、徒歩圏内で通わせたいです。

・小中学校を統合する場合、子どものこともそうですが、親の負担（送り迎え等）についてもちゃんと考えてほしいです。最初のうちはスクールバスを導入して行くかもしれませんが、少子化が進み、スクールバスが廃止になりましたでは意味がないですし、元も子もないと思います。学力を向上させたいのであれば、目が行き届きやすいよう少なめの生徒数でも良いのではないか

と思います。

・学区の自由化（にかほ市内で）不登校の子が、転校なども自由に選択できたら、もしかしたらまた、学校に通うことができるのではないのかなと思う。

・人口減少による統合は仕方ないと思うが、通学手段の確保など、配慮やサポートは必要だと思います。また、子どもの福祉対策は、とても魅力があるので人口の確保に向けた外へのアピールをもっと工夫し、やっていく必要があると思います。とても住みやすい地域なので、ずっと住み続けたいです。

・人数が多かった時代とはいえ、象潟、上郷、上浜など小学校は別々に過ごしてきたので、中学校はまた新鮮な気持ちだった。正直三校統合も残念に思っている。人数を見ると、仕方ないと理解しているが35人ではなく、30人未満で1クラスにしてほしい。今、様々な障がいの名前がついたりしているので、その子たちも大事だし、MAX35人を見る先生も大変だと思う。担任を二人にするか1クラス当たりの生徒数を減らしてもらいたい。昔と違って規制が多すぎて大人数は先生も生徒も大変だと思う。

・学校の安全、そして子どもたちを守ってくれる環境（いじめ等に対する対応）を願いたい。また、子どもたちの声を誠意をもって親身に聞いてほしいです。

・少ない子供数の中で小中学校はいいと思う。

・登下校時の長短も教育格差だと考えます。その点では、旧町単位に一つずつの小中学校は維持すべきかと思います。私たちのころは他の学区の学校との交流は部活しかなかったと思いますが、交流事業等が増えれば、社会性の育成や広い視野の獲得につながるのではないのでしょうか。

・1クラスだけの環境は視野が狭くなるし、そのコミュニティが全てのような感覚になりそう。様々な友達と触れ合える環境を整えてあげるべきだと思う。枠にとらわれない変化が必要。

・子どもたち一人ひとりに目が行き届くよう配慮、心遣い、快適に学習できる環境整備がある学校であってほしいと思います。

・目標にしたい人物がいてほしい。昔の三町問題にこだわるのは、もうやめてほしい。もう何年も経っている。部活動については、子どもたちが活動する時間として、ふさわしいのかを考えてほしい。

・小中学校のうちにたくさんの人と関わりを持つことは、子どもの成長につながると思います。児童数の少ない学校の統合には賛成です。以前、秋田県内の学校でネイティブな英語教育に力を入れている学校がテレビで紹介されていました。何かに特化した教育が受けられるのは、とても魅力的だと思います。田舎でも、こんな学校に通わせたいときてくれる家族もいるのではないかと思います。

・子どもの人数が年々減少しているが、少ない人数だからこそ、1人ひとりへかける時間を増やして、よりよい学校生活や人間づくりの助けになればと思っています。

・人数が少ない方が一人ひとりに目がいくのでいいかもしれないが統合してもいいと思う。

・私自身、平小、仁中の卒業生です。平小は3クラス、仁中は5クラスありました。子どもの数が減ったなあと感じました。子育てに関することや、移住に関して「にかほ市」に興味を持ってもらうのは良いことだと思います。子どもが楽しく自分らしく学べる学校に期待します。

・集団生活なので、社会性や協調性は大切だと思うし、規則を守ることも大事だと思いますが、1人ひとりの個性や性格も重視して、1人ひとりが生きやすくのびのびと集団生活を送れる配慮を期待し、願っています。

・児童の人数が減っても、安全に登下校できるように配慮がほしいです。（スクールバスを利用できるとか市のバスを登下校の時刻に合わせるなど）

・小中学校の前に幼児教育の早期導入を。読み書き計算は遅くとも4歳からできます。人生を決める大事な時期に保育園で保育だけしては、子どもの時間を無駄にしています。1日10分、1日1枚でいいんです。小中学校の時間が長すぎるのでは。学校以外の居場所（クラブ、塾等）積極的にプロと関わる活動の場が必要。